

釣れ釣れなるままに

1992年思い出の釣行記 PART. 6

# エドモ岬の主



## 鹿島釣狂

釣遊会第3回大会

☆開催日 平成4年6月14日

☆開催場所 歌別川～岬港

☆入釣場所	西東洋エンドモ岬		
☆潮	満潮	00:51	138cm
	干潮	08:39	8cm
☆天 候	晴天 無風 多少波有り		
☆釣 果	アブラコ	458 mm	5
	カジカ	250 mm	1
	ハゴトコ	mm	3
	重量	303	0g
☆成績	点数	1010	点
	順位	6	位
	累計点	27	点 (⑦⑭⑥)
	年間		位

予定ではエリモ第3下り口か東洋（沖の島、半七の先、横間）付近に入りたいと考えていた。バスの中で前野氏が歌露に誘ってくれる。図で見ると歌露の舟揚場の湾洞は狭そうで釣り場が限られているように思える。潮が引いてくると前の盤に乗っての釣りになるので見当がつかず躊躇する。

西東洋に入る賀集氏が「教えてやるから俺について来い。」と誘ってくれる。その言葉を信じて賀集氏の後に続く。民家の間を抜け、昆布を干すための石原を下りていくと「この辺りで釣るといい」と言い残して自分は三本岩の方に向かって行った。

舟揚場から磯に下りると、満潮のために岸まで潮が満ちているのでどこに打てばよいのか皆目見当が付かない。磯には潮待ちの釣り人数人が竿を出している。その間に岩の切れ目があり溝になっているようにも思えるので、そこで荷を下ろす。30分後にハゴトコ30cmが釣れる。そして、ガツンガツンとカジカのような強いアタリがあるが、ハリ掛かりはせずすっぽ抜けた。右隣の御仁に聞くと私の釣っているところは浅い平盤の上で釣れそうもないところだと教えてくれる。



3:00 空が白みかけてきたので周りの様子を伺いに行くと、ワシ岩に向かって渡っていく釣り人が2名おり、自分も渡れそうな雰囲気である。すぐに後片付けをして先行者と同じようなコースを進んでいく。その内にすっかり明るくなって溝もないことが分かり

簡単に渡ることが出来た。

ワシ岩左の深さのある所は先行者の3名に占められていた。その先の岩へ渡るには潮がまだ高く溝の間を海水が川のように流れている。その後ろに陣取り30分ほど待つことになった。その岩に渡ってみると、さらにその先にもう少し潮が引くと乗れる岩が出て来たが、まずはここで竿を出すことにした。しかし、その場所は、正面トド岩の方からのウネリが高くて釣りにならない。

3時方向の湾洞に入れた竿にアタリが出てハゴトコが2匹釣れる。その後、湾洞の奥から攻めてきた人と道糸が交差するのが心配になってきた。さらに潮が引き、手前にある岩が剥き出しになって、取り込みにも支障が出るようになってきたので移動することにする。この頃にはエンドモ岬全面が干上がりどこへでも歩いていけるようになっていた。

8:00 大きく迂回して舟揚場前の湾洞先にある小高い岩に乗る。前方は大きく開いており、釣り人もいない。そして、私が入る前に釣り人がいたのかマキエが散乱している。魚が溜まっているような気配がして期待が高まる。辺り一面に昆布やホンダワラが広がっているが、穴が空いたように海藻が薄くなったところを目がけて打ち込む。中投の2カ所は新調した30号竿2本でイカゴロネット仕掛けを打ち込む。近くに見える穴は25号竿でイカゴロ仕掛けである。間もなく30cmから35cmのアブラコが3本釣れる。

25号の竿に強烈なアタリが出た。竿を煽ると昆布の陰で赤黒い大きな魚体が見え隠れしている。しかし、途中のホンダワラの林に潜り込み抜けてこない。先程から道糸を弛めて再度強く引くと抜けてきたので同じように弛めてみる。グックと来たところで強く引くと竿が極限にまで曲がりそのあとフツと軽くなった。呆然となる。ハリスが切れていた。

同じ所に再度振り込むと間もなく同じようなアタリが出て竿を煽る。25号の竿がグングンと引き込まれて大きく曲がり、奴は悠然とホンダワラの中に紛れ込む。先程のこともあるので無理ができない。また、道糸を弛めておく。10分ぐらいたった頃、再度大きなアタリが来たので、竿を煽る。今度はジワッとホンダワラから抜けてきた。再度潜り込まれないようにと懸命にリールを巻きやつのことで手前まで寄せることができた。口の中に親指を入れて持ちあげようとするがその重みに負けて指の方がスッポ抜ける。それで今度は、手の平で大きく抱え込むようにしてそのアブラコを取り込んだ。メジャーを当てると50cm近くもある。私にとって初めての大型アブラコだ。その後、30cm弱のアブラコを1本追加し、最後の最後に嫁のカジカをとって道具を片付けた。

10:15 湾洞を挟んだ向かいで釣りをしていた賀集氏を訪ねるとカジカやアブラコの大物がバツカンに収まっている。遠くからでは、彼がほとんど座ってばかりで釣りをまともにしているようには見えなかったのが本当にびっくりしてしまった。暗い内での釣果なのだろうか。

後日談(2007年1月)

当時は、太平洋の昆布やホンダワラに潜り込んだアブラコを釣り上げる術を知らなかった。現在ならこの2本とも楽に取り込むことができるであろう。

